

## 専門委員会開催報告

専門委員会名	平成 29 年度第 1 回「シグマ」特別専門委員会
開催日時	平成 30 年 3 月 9 日（金） 13:30 ～ 16:30
開催場所	東工大大岡山キャンパス北 2 号館 6 階会議室
参加人数	13 名 千葉主査, 岩本幹事, 横山幹事, 池原委員、木村委員、今野委員、原田委員、日比委員、深堀委員、福田委員、山野委員、吉岡委員、国枝講師
議 事	<p>1. シグマ委員会活動経過</p> <p>千葉主査が平成 29 年度に行ったシグマ委員会主催または核データ部会との共催の原子力学会における企画セッション 2 件、アトモスに連載中の核データ部会の『核データ研究の最前線～たゆまざる真値の追及、そして新たなニーズへ応えるために』記事の監修、核データ要求 HP サイト開設とその意義、核データ部会と共同で行った核データニュース編集について説明した。質疑応答として、本特別専門委員会が原子力のみならず、原子核物理、宇宙物理、医学、放射線の産業利用等、分野の枠を超えた情報交換の場である特徴を最大原に生かして活動を継続する意義が議論された。</p> <p>2. 核データ研究グループの活動状況</p> <p>岩本修幹事が JAEA 核データ研究グループの活動報告を行った。主な内容は JENDL-5 の方針、外部予算取得状況、特に ImPACT プログラムにおける活動内容、JENDL 委員会の活動内容、国際協力状況、核データ測定グループの活動状況などについて説明された。これに対し、JENDL に対する要求や国際協力内容についてシグマ委員会の場で定期的に説明をいただきたい旨の要求があった。また、人員不足が顕著になっている ENSDF の活動について、木村委員に対して原子核物理分野からの協力を要請し、核理論委員でもある木村委員が物理学会関係者と議論することとした。質量数範囲は <math>A=120\sim 129</math> である。</p> <p>3. 核データロードマップの議論の開始</p> <p>横山幹事が炉物理ロードマップ(RM)の作成経緯を説明した。炉物理では 2012 年に一度 RM が作成されており、今回は 2 回目であることや、RM 作成過程における議論が重視されたことが紹介された。内容としては、「制度基盤」、「人材基盤」、「施設基盤」、「技術基盤」に分け、それぞれにリーダーとメンバーを決め、「2020 年（手が届く未来）、2030 年（状況転換が起こりうる未来）、2050 年（大きな変化が起こりうる未来）の炉物理のあるべき姿」に関する意見交換をスタートとして活動を行った。2017 年 10 月に炉物理部会の HP で新 RM が</p>

	<p>すでに公開され、アトモス 2018 年 4 月号にも掲載予定である。</p> <p>続いて国枝委員より、核データロードマップ作成方針が説明された。核データ RM の役割を「核データに関わる今後の研究・技術開発の”方向性”を示す指標とすること」とし、期待されることとして「核データのニーズ、方向性の共有化」、「国内関係者の協働による効果的な研究開発の実現」、「若手研究者や学生へ分野の意義や研究の魅力の提示」を行うことが挙げられた。</p> <p>質疑応答として、木村委員の所属する核物理でもロードマップが作成されたが、核物理、炉物理いずれに比べても核データは小さい分野であり、ロードマップの作成方法やあり方も独自のものとなることや、核データ自体は何らかの他の目的のために利用されて初めて意味のあることであり、それが直接の目的とならない特殊性などが議論された。また、共分散データ利用方法、核データ処理コードの問題などについて、炉物理コードや産業界とのインターフェースのあり方が議論された。RM 項目への「技術継承（人材育成）」、核データ「検証」の追加要望もあった。</p> <p>4. シグマ委員会の今後の在り方</p> <p>年間 10 万円での活動には自ずと制限があるが、メールでの意見交換を中心に活動し、来年度分としては核データロードマップ議論のために資金をある程度使用することを了承した。また、千葉主査が 2 期務めたため、本年後半には選挙を行い、再来年度からは新主査のもとで活動を継続することとすることが了承された。</p> <p>5. その他</p> <p>福田委員及び木村委員の旅費申請を承認した。</p>
備 考	